

## 図書館見学会\_ONLINE（国際子ども図書館）Q&A

先般は、当館主催の図書館見学会\_ONLINE に、ご参加いただき、誠にありがとうございました。第1回と第2回の見学会でいただいた質問と回答をここで改めてご紹介いたします。

なお、「夢の図書館—東京上野・国際子ども図書館をおうちで見学」は、年末までの公開になっております。ぜひ、この機会にご利用ください！

<<https://www.kodomo.go.jp/use/tour/vr.html>>

○第1回イベント（11/6（金）17:30～18:00）

### ■ご質問①■

貴重な建物だと思うので、業務をする際に気を配っていることなどありましたら教えてください。

### ■ご回答①■

2015年に新館が完成してから、職員の事務室は新館アーチ棟に移りました。レンガ棟は、現在も閲覧室やイベントを開催する場所として使用しています。2000年の全面改修時には、創建時の外観や内装を可能な限りそのままに残しつつ、図書館として利用できるように、免震化の技術を施し、照明や空調などを装備しました。レンガ棟のうち、明治期建設部分（子どものへや・世界を知るへや、児童書ギャラリー、本のミュージアムなど）は、内装を保存する必要があったことから、空調用ダクトや電線を、通常のように天井ではなく床面の下に通すなど、工夫をしました（2階、3階は床面が底上げされています）。また時代環境に適應できるように、エレベータなどを設置して機能面でも強化しました。

その結果、建物の内部には、帝国図書館時代のものを再生利用している箇所と、2000年以降に新たに設置した箇所とが混在しています。このため、新旧それぞれの材質に適した取扱いをしています。例えば、世界を知るへや（旧・貴賓室）の床の寄木細工は、当時の貴重な木材をそのまま使用していますので、傷めないように気を付けながら清掃しています。

### ■ご質問②■

「国際子ども図書館」として、どのような未来を担っていらっしゃると思いますか？

### ■ご回答②■

国際子ども図書館は、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」という理念のもと、その実現に向けて様々な業務を行っています。

現在のこのようなコロナ禍にあって、図書館のあり方そのものが問われていると感じており、オンラインコンテンツの重要性がますます高まっていることを実感しました。ご覧いただいた VR は、ま



さにこの状況下で作成したものです。図書館総合展も今年はオンライン開催となり、そのおかげで、思いがけず皆様を国際子ども図書館にご案内できて、良かったなと思います。

今後、オンラインコンテンツのいっそうの充実を図っていきたいと考えております。

■ご質問③■

照明なども帝国図書館だったころと同じものなのでしょうか。

■ご回答③■

大階段のシャンデリアは、帝国図書館の創建当時のオリジナルをそのまま使っています。世界を知るへや、ミュージアムのシャンデリアは、当時の写真を元に忠実に復元したレプリカです。なお、帝国図書館の昭和期増築部分に当たる、現在の「ホール」のシャンデリアは、時代が新しくなりますが、設置された当時（昭和期）のものです。

○第2回イベント（11/16（月）13:30～14:00）

■ご質問①■

蔵書はどのように選択・収集しているのでしょうか？ NDL に納品された本の一部が来るのでしょうか？

■ご回答①■

蔵書は、主に3つのルートで収集しています。①法定納本制度に基づく収集、②選書による購入、③寄贈や国際交換です。

国際子ども図書館では、国立国会図書館に納本された資料のうち、おおむね18歳以下の方が主たる利用者と想定される資料を所蔵しています。

■ご質問②■

選書による購入の基準はどの様なものですか？

■ご回答②■

選書による購入の対象は、主として外国刊行資料と国内刊行の児童書関連資料です。外国刊行の児童書については、各国の主な児童文学賞を受賞した作品などを中心に選んで、購入しています。

また、各室のサービスに必要な資料も選書して購入しています。例えば、子どものへやの資料は、①子どもに読書の楽しさや喜びを伝えること、②読書を通じて子どもの言葉や想像力、創造力、情報リテラシーを育成し、人間性を豊かに育むなど子どもの心身の健やかな成長に資すること、の2点を主眼として選書しています。調べものの部屋の資料は、中高生の調査やレポート作成に役立ててもらえるよう、中高生向けに出版された資料及び一般書から選んでいます。



■ご質問③■

世界を知るへやに初めて行きました。有名な『きんぎょがにげた』が数カ国語でずらっと並んでいたのですが、アラビア語版の表紙だけ、絵が反転していました。アラビア語が右から左に読む言語なので、それに合わせたのでしょうか？

■ご回答③■

そのとおりです。アラビア語の本は、右からページをめくります。「世界を知るへや」のこのコーナーでは、日本の作品が複数の外国語で翻訳されたものを集めて展示しています。翻訳された国・地域の文化を反映して、元の日本語の絵本にあったものがなかったりする事例もあります。もしうまく探せなかったら、カウンターの職員にお尋ねください。

■ご質問④■

20周年とのことですが、それ以前の子ども図書館はどこにありましたか？

■ご回答④■

国際子ども図書館のレンガ棟の建物は、明治時代に建てられた帝国図書館です。第二次世界大戦後は、国立国会図書館の支部上野図書館となりました。この建物を再生利用して、2000年に児童書専門図書館である国際子ども図書館として開館しました。国立の児童書専門図書館としては、2000年に開館した国際子ども図書館が初めての施設となります。

■ご質問⑤■

国際子ども図書館では相互貸借やレファレンスを受け付けておられますか？

■ご回答⑤■

お受けしています。詳細は国際子ども図書館のホームページをご覧ください。

・レファレンス・サービス（図書館・個人）：

<https://www.kodomo.go.jp/search/reference/index.html>

・図書館間貸出し（図書館）：

<https://www.kodomo.go.jp/use/lend/index.html>

※個人の方に貸出しは行っていません。お近くの公共図書館等にご相談ください。

■ご質問⑥■

職員の皆さんは「本が大好き！」という人が多いんですか？（みなさん、公務員なのでしょうか？）

■ご回答⑥■

本又は本を読むことが全く好きではない、という職員は、恐らくいないのではないかと思います

(調べたことはありません。申し訳ありません。)。ですが、「どの程度好きか？」となると、様々かと思えます。ちなみに国際子ども図書館では、職員有志で児童書の読書会を行い、知見を深めています。なお、国立国会図書館(国際子ども図書館を含む)の職員は、国家公務員になります。

■ご質問⑦■

国際子ども図書館／国立国会図書館の職員になるために必要な能力は？

■ご回答⑦■

様々な時代状況を受けて、図書館に対するニーズが変化したり、図書館のあり方そのものが変化を余儀なくされたりすることが、現在だけでなくこれからも起こりうると考えられます。そのような中で、「図書館サービスとは何か？」について模索し続けること、「読書は大切」「資料を大切に保存しなければならない」などの自分なりの信念をもって学び続けることが大切なのではないか思います。

■ご質問⑧■

模型の背後に写っている木の渋い看板？について教えてください。

■ご回答⑧■

2000年の開館時に、レンガ棟正面向かって左手に設置していた、屋久杉の館銘板です。故橋本龍太郎・元内閣総理大臣の揮毫で、貴重なものですので、雨風にさらされて傷まないように、屋内に退避させました。現在はコンクリート製の館銘板が同じ場所に設置されています。

■ご質問⑨■

さきほど本を大切に保管していくということを仰ってましたが、利用者が子供や赤ちゃんなので実際には折れてしまったり、破れてしまったりと結構難しいのではないかと思います。なにか工夫などされておられますか？

■ご回答⑨■

「子どものへや」や「世界を知るへや」などで開架して閲覧に供している資料は、国立国会図書館に納本いただいた、永久保存すべき資料とは別に、別途選書して購入しています。また、折れたり破れたりした資料は、その都度修理しています。

たくさんのご質問ありがとうございました！

